

会報 習志野隊友

安倍元総理凶弾に倒れ死去

八千代市で最後の講演

去る7月8日、参議院議員選挙の応援のため、奈良で応援演説中であった安倍晋三元総理大臣が、暴漢に改造銃



で撃たれ亡くなられた。あまりにも衝撃的な事件であった。あれから2ヵ月余、なおも我々の心中は、得も言われぬ喪失感が覆っている。日本は、安倍晋三というかけがえのない人物を最も必要としているこの時代に失ってしまった。痛恨に堪えない。思えば、参議院選挙の応援で東奔西走の最中の7月3日、我が八千代市

に足を運んでいただき、憲法改正を主題として熱のこもった講演をいただいたのが、安倍晋三元総理大臣ご講演の全国を通じての最後となってしまうことが悔やまれる。

本講演会は、日本会議八千代支部と「千葉県第二区国民投票連絡会議」の共催によって実現したものである。そもそも「国民投票連絡会議」とは、先に民間団体「美しい日本の憲法をつくる国民の会」が、憲法改正一千万人署名運動を展開し、平成30年、全国で署名一千万人を突破した民意を受け、引き続き憲法改正の気運を民間の力で醸成して、来るべき憲法改正「国民投票」で過半数以上の賛成票を獲得すべく、全国289小選挙区毎に「国民投票連絡会議」を設立して運動を継続する企図の下、開始されたものである。

その気運を受け、我が千葉県第二選挙区（習志野市・八千代市・千葉市花見川区）においても有志相集い、令和元年、「千葉県第二区国民投票連絡会議」を設立し、私も発起人の一員に名前を連ねた経緯がある。その後、コロナウイルス感染の特別状況に遭遇し活動もままならない日にちが経過したが、この度たまたま、安倍元総理を講師に迎えての講演会開催が実現し、大いに盛り上がり、この地域での憲法改正推進運動に弾みがついたと思つた矢先のこの奇禍である。安倍晋三元総理のご冥福を心からお祈り申し上げ、ご遺志を奉じ、我々一同、

憲法改正実現に向けて微力を尽くす覚悟を新たにす次第である。(公会員 Y)

*

以下、7月3日の八千代市市民会館における安倍晋三元総理大臣の講演内容（抄録）を、追悼の思いを籠めて、紹介させていただきます。

岸田政権になって憲法審査会の議論が進むようになりました。

石原慎太郎さんは残念ながら逝去されましたが、国会の党首討論のとき、憲法の前文の一字だけでも変えてくれ、「諸国民の公正と信義に信頼して」の「に」は「を」だろうとおっしゃっていました。政治家として、また作家としての矜持だったのだろうと思います。

同じ敗戦国のドイツと日本ですが、ドイツは既に何回も憲法を改正しています。我が日本は0回です。この違いを象徴しているのが1977年の出来事だと思えます。9月のダッカでの日航機ハイジャック事件では、人質を守るためにテロ集団の服役囚を釈放しました。一方、同じ年の10月、ドイツのルフトハンザ機ハイジャック事件では、ドイツ政府は犯人側の要求に屈せず特殊部隊を送って犯人を射殺して人質を解放しました。世界はドイツを称賛しました。憲法改正をすでに終え、備えをしている国と、憲法の一字一句も変えられず、備えが後手後手になっ

ている国との違いが出たのだと思います。

しかも同じ年の9月に北朝鮮によって久米裕さんが拉致され、11月には横田めぐみさんが拉致されています。日本の憲法は13歳の少女の人生すら守れなかったのです。

したがって、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」という決意した」ということは、拉致という現実の前にすでに崩れていたわけですが、今、ロシアによるウクライナ侵略によって完全に崩れ去ったと言わざるを得ません。

憲法が前提として世界観が崩れてしまった。そういうことを感じたからこそ、今、憲法改正の議論を真剣に進めねばならないという気運が日本国民の間に醸成されつつあるのではないかと思います。

今、ウクライナにおいてウクライナを守るために命を懸けて戦っているのは、ウクライナ軍です。一方、日本が他国から侵略されたときに、命を懸けて戦うのは自衛隊です。しかし、自衛隊についての記述が憲法にはない。

共産党の志位さんは自衛隊は憲法違反だと言いますが、ある日の党首討論で、「もし急迫不正の事態になったらどうするんですか」と私が訊いたところ、「その時は自衛隊にお願いする」と志位さんは答えたんですね。どう考えてもこれはおかしい。

さて、もしウクライナがNATOに

加盟していたとしたらロシアも簡単には手出しできなかったと思います。一方我が国では2015年に平和安全法制が制定されました。あの時、野党の一部は、集団的自衛権が行使できるようになったら戦争に巻き込まれると言っていました。でも結果は逆なんですね。集団的自衛権を行使できる輪の中に入っただけで安全ということなんです。大切なポイントが、自らの国を守るための努力をしない国のために共に戦おうという国はないということなんです。だからNATO加盟国はGDPの2%の防衛費をそれぞれ負担する約束し合っているのです。

翻って日米同盟ですが、アメリカの若い兵士が日本のために戦うというのはどういうことか。彼らにも家族がいて恋人もいるでしょう。自分の愛する人が日本のために戦うということを兵士の家族が理解し支持しなければ、この同盟は紙屑同然になってしまう。だからこそ、我々も努力しなければならぬ。そこで平和安全法制を成立させ互いに助け合える同盟に変えました。そして更に、我が国の国家意思を防衛費の増額という目に見える形で示さなければなりません。

ヨーロッパではNATO30カ国に対する相手はロシアだけです。一方、我が方は日米同盟に対する相手はロシア、中国、北朝鮮です。ですから、日米だけでなく、日米豪印のクアッドや、自由で開かれたインド太平洋構想が大

切なのです。イギリス、オランダ、フランス、インド、カナダも艦艇を派遣して自衛隊と合同演習をしました。

そういう姿を中国に見せていくことが大切なんです。基本的価値観を共有する国同士が連携してこの地域の平和と安定に責任を持っていく姿を見せることが抑止力になっていきます。抑止力とは戦争を止める力です。ウクライナで起こってしまったようなことをこの地域で起こさせないために、より連携を強めて抑止力を高めていかなければなりません。

そして、憲法改正ですが、まずは自衛隊の違憲論争にしっかりと終止符を打つことに力を注ぐべきだろうと思います。私は総理大臣として8回、防大の卒業式に行きました。卒業生の諸君からの「服務の宣誓」を最高指揮官として受けました。これは重い宣誓です。最高指揮官として彼らの命を預かる者として大きな責任を感じます。国を守るために命を懸けている自衛隊の諸君が胸を張れる日本にするために、皆さん、憲法を変えましょう。

(文責：支部長柚木)

お知らせなど

▽ **新入会員の紹介** (敬称略)

・藤川寿之 (陸) 津田沼七丁目

▽ **会員の逝去**

・堀池 彌 様 香澄一丁目
(令和3年12月逝去)
・藤崎睦男 様 香澄一丁目
(令和4年7月逝去)

ご逝去を悼み、生前のご厚誼に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

▽ **行事等の実施・参加**

新型コロナウイルス感染の不安が相変わらず払拭できず、この半年間においても、実施が予定されていた関係行事等は、軒並み、中止、あるいは参加範囲を限定しての実施となった。当習志野支部においても、令和4年度支部総会・懇親会の中止を余儀なくされた。習志野自衛隊の恒例の降下訓練初め(1月)、駐屯地創立記念行事(4月)も部内だけの行事となり、夏まつり(8月)は中止となり、当支部としては習志野自衛隊協力会の発起に賛同して、ささやかながら激励金を贈呈した。

▽ **行事等の今後の予定**

ウイルス感染の不安が、未だ払拭出来ぬ状況に鑑み、関係諸行事等の今後の実施予定は、今のところ不明である。